

こうした世相だからこそ、清涼なそよ風をお届けします

相変わらずのいじめ、虐待、等々の人の心の索漠としたニュースが……。

こうした世相の時だからこそ、ある若者とある母親からの清涼なそよ風をお届けします。

やはり、子どもの中に「優しさ（思い遣りの心）」を育むのは、周りの大人のこうした日頃からの係わり合い方にあるような気がしますよね。

・確かに、人を愛するという事は言葉や文章では伝えられず、愛されてこそ、愛してこそ、人は愛を学ぶのだと思います。

私は生まれて一度も父、母に手をあげられたことはありません。

幼い頃から、「ほっぺや頭はなでる為にあるのよ」と教えられてきました。

だからといって私の親は甘いわけではなく、常に愛情をもって、子どものことを第一に考え、育ててくれていると感じています。

だからこそ私の尊敬する人、目標とする人は、死ぬまでずっと母なのです。

私は何気なく過ぎて行く日々の中で、目にしたもの、美しいと感じたもの、考えたことなど、沢山のものを目にし、多くのことを感じています。

些細なこと、当たり前な普通のことでも、それをきちんと感じられる人でずっとありたいと思います。

・私は、娘に、「『うざい』『死ね』『きもい』など、話の中でたまに聞くけど、明日から急に全部使うなど言っても無理があるから、言ってしまったら小さい声でもいいから、『ごめん』と言ってみたら」と。

「家族の誰かひとりがこの言葉を他の人から言われたら、お母さんは絶対に嫌だし、家族の誰かが他の人に言ったら、きっと相手の家族も嫌な思いをしていると思う」と。

「気の合う同士、冗談で言っていると言うけど、お母さんの前であなたが言われたら、お母さんは絶対嫌だね」と。

娘が素直に「そうだね」と言ってくれたのでちょっと安心。

身近なところから少しずつ変えていこうと思います。

みな様からも、清涼なそよ風をお届けください。

(2006年12月1日 記)